

2 次の文章を読み、下記の設問(問1～6)に答えなさい。なお、史料は、わかりやすくするために改めたり省略したりした箇所がある。

文章

日本中世の初期にあたる11世紀段階の農業生産は、耕地の状況や労働力の多寡によって大きく左右された。ただでさえ生産力の低い土地は、連年の耕作に耐えられず、少なくとも農地の3割以上が休耕田や荒田などで占められていた。こうした生産力の低さが、1230～31年におきた、鎌倉時代でもっとも深刻な寛喜^(a)の大飢饉を引き起こす原因のひとつであったことは否定できない。

中央政府や地方の国衙、在地領主たちは、まず、耕作地を開発して面積を拡大すると同時に、労働力を集中的に土地に投下することによって、生産高・収納高を上げようと考えた。すると、土地の境界をめぐる争いや労働力の奪い合いが起こった。国衙領に個別の耕作地をあてがわれ、アとなった比較的有力な負名・田堵らでさえ、条件次第では、近隣の荘園で土地を耕作・開発したり、複数の国衙や荘園にまたがって就労したりすることもしばしばであった。

次いで、国司や荘園領主たちは、農地や農具の開発・改良・導入などに乗り出した。用水路や溜め池などのイ施設を整備するほか、11世紀後半からの鉄生産の発展・普及を背景に、鋤や鍬の導入に努めた。牛馬を使って鋤を引かせることも、徐々に普及していったらしい。

田畠の安定化が進み、二毛作を行なえる土地も増えてくると、農民たちが必ずしも土地を転々とせず、ひとつの村に集住できるようになった^(c)。領主やその代官との日常的なつきあいが深まったのも当然といえよう。とはいえ、こうした集村化は、先進地域の畿内でも14世紀段階のことであり、日本の各地では、ようやく15世紀に現代に続く村^(d)が形成されていったとされる。

二毛作の裏作でさかんに作られた麦は、農民の重要な食糧であり、もともと領主の課税対象ではなかった。それゆえ、一般に麦作はさかんで、農地の利用は過酷の度を強めていった。その結果、稲の植え付けや生育が遅れるなどの問題が浮上した。

こうした状況への対応策として本格化したのが、さまざまな肥料や新種の作物

の投入である。13世紀後半には、刈藪・ 灰・糞尿などを土に入れ、農産物の収穫量を増やす工夫が始まった。また14世紀ころからは、新たに日本に伝わってきた 米が九州・西日本一帯に広く普及した。これは東南アジア原産の赤米の一種で、食味は劣るが干魃^{かんぼつ}や虫害に強いという特性をもつ品種である。もともと、15世紀に入るところから日本列島は急激に寒冷期へ向かうため、南方系の米は、かえって凶作や飢饉を深刻化してしまった可能性がある。1420～21年の応永の大飢饉、1459～61年の長祿・寛正の大飢饉は、とりわけ被害が甚大であった。

これに加えて、治水技術の限界から、河川の氾濫^{はんらん}・洪水により田畠の実りが流されることも少なくなかった。このように、日本中世の歴史を振り返ると、ほぼ慢性的に凶作や不作、飢饉のおそれがあった様子がうかがえる。農民たちは年貢や公事などの減免を領主側に求めたり、借金のかたちで未納分を処理したりしてもらった。それでも食い詰めた中世の農民たちは、度重なる戦乱に乗じて敵陣営の村や都市を掠奪^{りやくだつ}し、あるいは親族・縁者を人買いに売り飛ばして、生き長らえる途を探るほかなかった。^(e)

問1 空欄～に当てはまる語句を答えなさい。

問2 下線部(a)に関連して、次の問いにそれぞれ答えなさい。

- (1) 大飢饉をひとつの契機とする危機的状況や社会的混乱をうけ、1232年、鎌倉幕府が一群の法令を制定して裁判制度の整備を図った。この法令を一般に何と呼ぶか。また、この法令を制定したときの幕府の執権は誰か。

- (2) 次の史料は、飢饉が収束に近づきつつある 1239 年に鎌倉幕府が発した法令の前半部分である。その要点について 40 字以内で説明しなさい。

注1
寛喜三年餓死のころ、飢人として出来の輩しゅつたいに於いては、養育の功
勞につき、主人の計はからいたるべきの由、定め置かれおわんぬ。およそ
人倫じんりん売買の事、禁制ことに重し。しかれども飢饉の年ばかりは免許せ
らる。

注1 「寛喜三年」……西暦 1231 年。

注2 「人倫売買」……人身売買。

問 3 下線部(b)に関連して、荘園領主は、不入の権を朝廷から獲得していった。
この不入の権とはいかなるものであったか、30 字以内で説明しなさい。

問 4 下線部(c)に関連して、現在でもさまざまな年中行事や民俗儀礼が各地の村
に伝わっている。たとえば、16 世紀中頃、越後の国人領主色部氏の記録に
は、年末に有力農民たちが領主の館に門松を立てて、それに対して色部氏が
酒樽さかだるを下付・支給するという習慣が記されている。

- (1) 領主側にとって、農民たちに酒をふるまう行為にはいかなる意味や意図
があったと考えられるか、40 字以内で述べなさい。
- (2) 有力農民層の側にとって、領主の館に門松を立てる行為の意図や目的は
どこにあったと考えられるか。本問の文章の表現を用い、40 字以上 50 字
以内で述べなさい。

問 5 下線部(d)に関連して、村の中心的な神社の祭礼などを主導した村の有力者
層が構成する集団を、一般に何と呼ぶか、答えなさい。

問 6 下線部(e)に関連して、16世紀後期、中南米にも日本人奴隷が売られていったことが、近年解明されている。個々の渡航ルートは不明だが、当時の一般的な航海ルートを考えると、彼らは九州南部からスペイン政庁の置かれた植民都市 に渡り、太平洋を経てメキシコのアカプルコに到達したと見られる。

なお、この逆ルートによって、ボリビアの 銀山などで産出された銀や銀貨が、東アジア方面にさかんにもたらされた。

空欄 ・ に当てはまる地名を答えなさい。